

【執筆】(一社) 保険者機能を推進する会
レセプト・健診データ分析研究会

このコーナーでは、(一社) 保険者機能を推進する会レセプト・健診データ分析研究会の活動で得られた知見を隔月で紹介しします。

健診の“問診回答”と“検査結果”の関連性の検証

■活動の起点

問診で「良い生活習慣」がある人は、健診の検査値も良好であるはずだが、実際はどうなのだろう……と考えたところから問診分析グループの活動が始まっています。その仮説が正しいのであれば、健保組合の施策や健康増進事業の策定に役立てられます。2022年度から参加メンバーは入れ替わりながらも、レセ研恒例のグループワークのひとつとなっています。

■分析の試行錯誤・前進・挑戦とその結果

2022年度は、まずは単年で健診結果（強制被保険者分）を集計し、分布図や散布図などを作成しました。なかなか有効な結果が得られませんでした。さまざまな視点・観点・現場感覚などを伝え合い、視点を変えて各問診の回答値の割合に目を向けたところ、肥満層か否かで分けて見たときに、回答の割合に差が見られる質問項目があることを発見しました。

そこで、BMI、血圧、脂質、血糖について特定保健指導の基準に該当しない層と該当する層の問診回答を比較しました。おおよその検査項目と関連があったのは、“体重変化”と“飲酒量”、そして“BMI”は概ねどの生活習慣とも関連があるとの結論に至りました。

2023年度は、「2021年度から2022年度にかけた生活習慣の変化と検査値の変化はどう関連するか」という、経年データを用いた検証をすることとなり、後藤英子先生（東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学特任助教）のアドバイスとご協力をいただき、本格的な解析に挑戦しました。「1年間で生活習慣が改善した人はそうではない人と比べ、有意に検査値も改善する」という仮説を立て、計8組合、約19万人分のデータを活用し、「生活習慣が1年間で改善した人（＝問診の回答が良いものに变化）」と「変化なし、または悪化した人」との間で検査値の変化に違いがあるか、性別・年齢の影響を考慮するために重回帰分析という手法を用いて検証しました。得られた結果は、次のようなものがあげられます。

- ・“運動習慣”、“歩行を1日1時間以上”、“就寝前の夕食”、“間食”、“飲酒頻度”の改善は、検査値の改善に寄与する可能性がある
- ・とくに、生活習慣の改善はBMIとHDLの改善に寄与する可能性がある

■これまでの活動で得られた見解と今後の展望

2023年度までで得られた結果から、どの生活習慣の改善がどの検査値の改善につながり得るのかは見えたため、健保組合の施策策定時においても、ある程度参考になり得ます。ただし、健保組合ごとの特性や課題は異なることを踏まえ、全体の分析結果を理解しつつ、自健保組合でどの生活習慣の改善に取り組む、健康状態の改善につなげるべきか、見える・判断できる形を示せるように進化できればと期待しています。問診分析グループでは、2024年度も新たな発見・気づきと、そして各健保組合の事業に役立つ成果を得ることをめざしています。

2022年度グループワークで導き出した結論 ～“問診回答”と“健診結果”の関係性の有無～

	喫煙	体重変化	歩行速度	食べる速さ	飲酒量
BMI		●	●	●	●
血圧	●	●			●
脂質	●	●			●
血糖		●			

●＝関係性あり

2023年度グループワークで導き出した結果 ～“問診項目改善”と“健診結果改善”との関連～

	生活習慣	BMI	収縮期血圧	拡張期血圧	中性脂肪	HDL	空腹時血糖	HbA1c
運動	運動習慣	●		●	●	●	●	●
	歩行を1日1時間以上	●		●	●	●	●	●
	歩行速度	●			●	●		
食事	食べ方_速度	●				●		
	食べ方_就寝前	●	●	●		●	●	●
	食べ方_間食	●	●	●	●	●	●	●
	朝食		●	●		●		
飲酒	飲酒(頻度)	●	●	●	●	●	●	
	酒量	●				●	●	

●＝重回帰分析の結果、生活習慣の変化と検査項目の変化との間に有意な関連が見られた（ $P<0.05$ ）
問診は特定健診の標準的な質問票への回答結果を活用

／アドバイザーから一言／

東京大学未来ビジョンセンターデータヘルス研究ユニット特任准教授
井出 博生 先生

特定健診の問診票の根拠を調べたことはあるでしょうか。もちろん一つひとつの質問には、根拠となる研究があります。ただし、質問を複合的に見た場合、検査値とどう関係しているのか、実際の健保組合のデータ（昨今話題のリアルワールドデータ）で確認したらどうなのかはよくわかりません。今回はアドバイザーの後藤英子先生の指導をいただきながら、匿名化したデータを持ち寄って分析した結果の報告でした。生活習慣の改善を図ったときに、どの検査項目で改善が期待できるのかを、自健保組合のデータでつかめていると自信をもって保健事業に取り組めます。他健保組合と一緒に分析したのであれば、結果はより確かですから、一層自信をもって保健事業に取り組めるでしょう。